

大学コンソーシアム富山 地域課題解決事業
平成25年度 地域課題提案書

自治体等名	朝日町	提案部局	商工観光課
地域課題名	観光地の魅力アップについて		
地域課題の背景	<p>当町には、翡翠の原石を拾うことができ、「日本の渚百選」にも選定されている“ヒスイ海岸”や、残雪の残る朝日岳・桜並木・菜の花・チューリップの色彩の四重奏を楽しめる“舟川べり”の風景など、町外へ誇ることができる素晴らしい観光素材がある。</p> <p>しかし、その素材に対する受入れ体制（ソフト、ハード）が不十分であり、観光地としての完成度が低いため、訪れる観光客を十分にもてなすことができていない。</p> <p>消費行動させる工夫が不足しているなど観光産業にうまくつなげることができていない。観光地として充実を図り、リピーターを増やし、交流人口の増加を図りたい。</p>		
事業の概要	<p>当町の観光地の現状調査（観光客の年齢層、性別、来訪の時期・時間帯、住まい等について）を実施するほか、観光客に「訪れてみての感想」や「良い点」「改善した方がよいと思う点」「欲しい施設」などの意見を直接伺い、調査結果としてまとめる。その調査結果のもと、全国的に成功している数々の「観光名所」における取組み等も参考にしながら、当町に合ったより効果的な観光戦略を考える。</p> <p>（対象素材は、別途協議したい。）</p>		
事業実施に当たっての協働体制	<p>【自治体等の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体の関わり方についてどのような体制が必要か、今後高等教育機関と協議したい。 <p>【高等教育機関の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光地での現地調査（観光客の来訪状況や、観光客へのインタビューによる調査等）と、その調査結果から考えられるより有効な観光戦略・仕掛けの提案。 		
成果の活用方法	<p>調査結果や提案から、観光客の立場からの「求められていること・必要なもの」を認識し、その需要に見合った戦略・取組みについて実施に向けた協議・検討、既存の観光地の活性化や魅力度のアップを目指す。</p> <p>また、これらの取組みが、朝日町の活性化が「富山県」としてのPR効果を生み、“郷土・富山県”の情報発信にもつながることを期待する。</p>		

大学コンソーシアム富山・地域課題解決事業
朝日町の「観光地の魅力アップ」に関する研究調査報告

1. 現地調査実施報告

平成 25 年 10 月 31 日

1) 朝日町商工観光課でのヒアリング

富山県立大学工学部環境工学科の九里研究室（九里徳泰、大学院生 1 名、学部 4 年生 2 名）が、本事業の研究調査に先立ち、朝日町商工観光課（担当：中島雅弘氏）より、朝日町の観光の魅力ある場所・内容についてのヒアリングを行った。まずは大学側より、高等教育機関の役割として、観光に関する調査研究を担うことができ、また、調査の一端を担う大学生は、固定概念が少なく感性が豊かで積極的に活動に取り組むことができることについて説明を行った。実際の大学生・若い世代との協働取組については、富山県立大学大学生による現地視察の実施や、平成 26 年 1 月 20 日に一橋大学大学院修士課程学生等を招聘し、自治体の WEB の有効活用による観光の活性化についてディスカッションを行い、地域の魅力を統合することで発信力が高まる等の知見を得て、今後の研究調査の方針を固めることができた。

次に、中島氏より、朝日町の魅力ある場所・内容について話を伺った。朝日町の自然、歴史、生活文化等の概要について説明いただいた。朝日町は海と山を有するなど自然が豊かである側面だけでなく、今もなおその恵みを得て生活を行うといった自給自足の暮らしを行っているということや（蛭谷地区等）、そのような暮らしを体験できる農業体験や文化伝承体験を担う「あさひふるさと体験推進協議会」が発足したこと（他、NPO 法人グリーンツーリズムとやまが、蛭谷地区で帰農塾を行う）、そして、当協議会の事務局長である上澤聖子氏が県外移住者であり、精力的に活動を推進されていることを教えていただいた。また、当協議会は、愛知県や福島県の修学旅行受入（2泊3日）や、地元小学校の自然体験を提供するなど、朝日町の観光の魅力アップにつながる資源・人材についての示唆を得た。

次に、自然を活用した観光の在り方として、ハード面では、ヒスイ海岸（ヒスイ探し、海水浴）、温泉（湯治）、宿場町など、ソフト面では、春に舟川の桜まつりや7月に朝日岳の山開き、毎年9月にビーチボール発祥の地として大会が行われるなど、朝日町の魅力的な場所・行事について話を伺った。また、日本全国にある“朝日”の名を持つ町村が集まる「全国朝日交流会」といった興味深い集会・活動を教えていただき、朝日町が、町勢の発展と住民の生活文化の向上に勤めていることが分かった。なお、富山県朝日町の特産物の一つとして、「美味しんぼ」（小学館）の漫画で紹介される“たら汁”があることを教えていただき、当日の昼食を兼ねての現地調査のため、朝日町でたら汁が食べられる場所を紹介いただいた。そして、観光の魅力アップを阻害する要因として、観光地ヒスイ海岸に

おけるテトラポットが景観を損ねたり、ヒスイ海岸へのアクセスの一つ“越中宮崎駅”運用の財政難であったり、春に舟川の桜まつりでの来訪者の自動車の駐車問題と地域住民への騒音の問題など、解決しなくてはいけない地域問題があることについて話を伺った。

今回のヒアリングでは、朝日町の概要・現状等について把握することができた。

2) 朝日町の観光地視察（ヒスイ海岸、舟川べりの桜並木、バタバタ茶園、なないろ KAN（ガラス工芸体験、古民家・笹川地区、タラ汁）

	<p>左写真：ヒスイ海岸（JR 越中宮崎駅前） ヒスイの原石が拾えることから宮崎・境海岸はヒスイ海岸とも呼ばれ「日本の渚・百選」に選定されている。</p>
	<p>左写真：舟川べり桜並木 春になると、舟川の両岸約 1.2km にわたる約 280 本のソメイヨシノ、チューリップや菜の花、そして残雪の朝日岳が一望できるスポット。</p>
	<p>左写真：なないろ KAN 陶芸や吹きガラス等、手作り体験イベントが豊富な施設。てづくり館やもぎたて館等の 7 つの館で構成されている。</p>
	<p>左写真：バタバタ茶園（なないろ KAN 前） バタバタ茶とは日本では珍しい黒茶を用いた発行茶であり、茶せんをバタバタと振りたて泡立てて飲むことから、そう呼ばれるようになった。</p>
	<p>左写真：タラ汁定食（ドライブインきんかい） たら汁とは、ぶつ切りにしたタラを頭の先から内蔵のキモまで全てを鍋に入れて煮た味噌汁のこと。昔は漁師料理として漁師の間で食べられていた。</p>

平成 26 年 1 月 20 日

1) あさひふるさと体験推進協議会事務局長の上澤聖子氏との会議、観光特産品の調査

富山県立大学工学部環境工学科の九里研究室（九里徳泰、大学院生 1 名）が、あさひふるさと体験推進協議会事務局長の上澤聖子氏との会議を行い、本協議会の全容や課題について説明いただいた。本協議会の事業の一つとして、朝日町の自然や生活文化等を学ぶ体験学習事業として、県内外の小学生に自然体験を提供するなど、現在は、地元小学校（2 校）、愛知県（1 校）、福島県（親子プログラムとして 2 回／年）を受け入れ、協議会のメンバーを先生としてあつらえ、漁業体験、農業体験、林業体験を行っている。また、そのような協働体制の中で、地域資源・人材による体験活動の事業化へと展開され、現在は、県内ツアー業者「株式会社エコロの森」との観光開発・実証にも取り組んでいることを説明いただいた。

本協議会の課題として、地域資源・魅力・活動が特定の場所や人に偏るなど、本協議会のメンバーではない民間企業や団体組織、また、朝日町に住む若い世代の意見・ポテンシャルを引き出しづらい現状、課題があるといった旨を説明いただいた。

以上、現状と課題を踏まえ、地域住民、民間団体・NPO、行政、富山県立大学等が、朝日町の観光振興を目標に、観光地の魅力や地域の観光資源等について考え、そして、地域資源のブランド化及び仕掛けの提案を行うなど、あらゆる主体が双方向の形で話を聞く場を設けることを提案した。

2) 一橋大学、藤川遼介氏を招聘し自治体の WEB の有効活用による観光の活性化についてのディスカッション

任意団体 APITEC の代表の藤川遼介氏（一橋大）、メンバーの佐々木彩子氏（社会人、管理栄養士）を招聘し、富山県立大学工学部環境工学科の九里研究室（九里徳泰、大学院生 1 名）、朝日町商工観光課（担当：中島雅弘氏）と、地域の広報戦略の課題に関する研究調査報告を受け、朝日町の観光地の魅力アップについてディスカッションを行った。APITEC は、地域づくりに関する研究を深める院生・社会人によって構成された任意団体で、地域ポータルサイト Broup やデータベースを駆使した地域情報を軸に Web を通した地域づくりのコンサルタントを行っており、地域ポータルサイト Broup は、地域・企業・NPO・教育機関・住民・若者・学生など、地域に溢れるあらゆる情報を整理するインターネット上のデータベースとして機能している（Broup ホームページサイト：<http://apitec.info/>）。また、APITEC は、このポータルサイトを活用し、様々な地域で活躍されている人びとの活躍ぶりを多くの人に認知してもらう情報サイトとして促進され、「新たな情報や人の流れ」を生み出し、地域づくりに貢献する活動を目指していることについて、発表をいただいた。

藤川氏の修士論文の内容及び発展研究結果を踏まえ、地域ポータルサイト、自治体 Web リニューアル作業を通じて、まちの現状分析、ビジョンの明確化を行い、オン・オフ連動のまちづくりの可能性を提示された。修士論文の結果として、日々変化する今日の社会において地域の特性が失うなど、地域の在り方を見直す機会の必要性が問われ、大学を含めた地域に関わるあらゆる主体における協働取組を行い、地域の現状に合わせた先を見据えた提案をニーズに合わせて創造することが必要であることが示唆された。

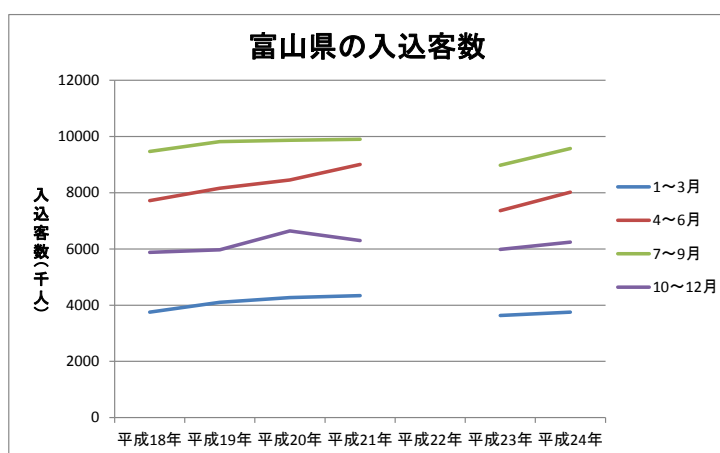
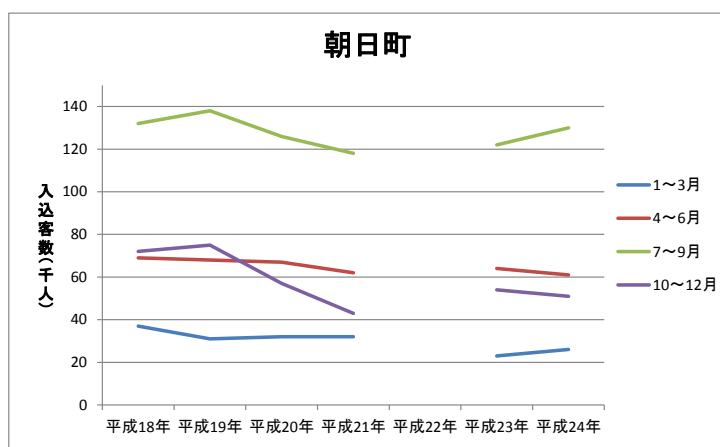
朝日町においても、従来の公共施策・行政区分では対応できない問題を、あさひふるさ

と体験推進協議会を発足させ課題解決に取り組まれているなど、地域の現状に合わせた協働取組の重要性を再認識した。藤川氏の研究成果は、多種多様な利害関係者（ステークホルダー）が関わる協働取組・プロセスの在り方の具体的な実現手法として非常に有用な研究調査であり、また、藤川氏は、全国自治体 WEB について、日本国内数か所で実地調査・アンケート調査・評価を行い、自治体 WEB が持つ観光振興に係る効果や可能性について発表され、朝日町における本研究成果の実用性が示し、本事業の今後の展望について有用な示唆を得た。

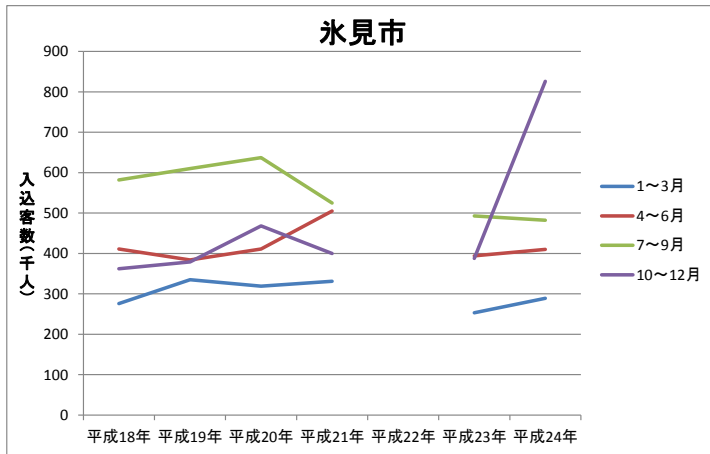
2. 観光情報の調査結果

1) 観光統計データの分析

富山県観光・地域振興局観光課の平成 19 年から平成 24 年までの富山県観光客入込数のデータ（平成 22 年のデータなし）を基に、富山県全体と朝日町の観光客入込数の経年変化グラフを作成した。平成 22 年度については記載がなかったため、グラフには掲載していない。富山県全体の観光客入込数をみると、夏期（7 月から 9 月）が多くなり、冬期（1 月から 3 月）は少なくなる傾向が見られた。朝日町も同様の結果が得られた。平成 20 年度秋季（10 月から 12 月）について、東海北陸道の全線開通により、五箇山や瑞龍寺等の沿線観光地が入込数を増大させ、県全土では、前年度比 11.3% の増加となった。しかし、朝日町では平成 20 年度、21 年度と観光客の入込数が減少している。

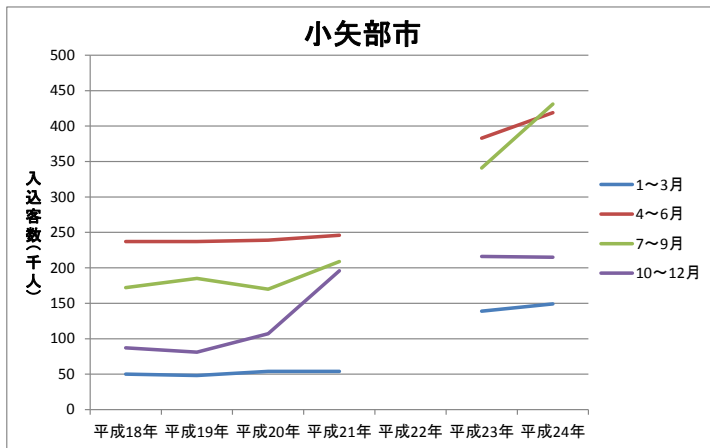


朝日町は、7 月から 9 月の夏期の観光客入込数が多い。夏期以外の入込数は、減少傾向にある。富山県全体で見ても、夏期の入込数が多くなっている。しかし、氷見市、小矢部市、砺波市のように、夏期以外の入込数が増える市町村もあった。氷見市においては、平成 24 年の 10 月から 12 月における入込数が、前年の約二倍になっており、夏期の入込数を抜いた。小矢部市においては、すべての期間で入込数が増加しており、アクセスがしやすいことに加え、クロスランドおやべ、道の駅「メルヘンおやべ」等の施設が季節に関係なく安定して利用できることが入込数増加の要因と考えられる。砺波市においては、春期における入込数が突出して多くなっているが、チューリップフェアやその他のイベントも春期に多く開催されていることが要因と考えられる。



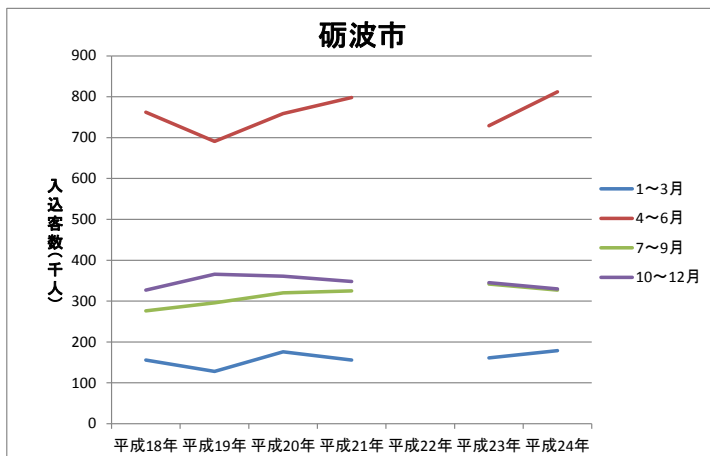
《観光地・施設》

- ひみ番屋街 (平成 24 年オープン)
 - あいやまガーデン
- 《イベント・祭り》
- 祇園祭 (7月)
 - ひみまつり (10月)



《観光地・施設》

- クロスランドおやべ
 - 倶利伽羅県定公園・古戦場
 - 稲葉山宮島峡県定公園
 - 道の駅「メルヘンおやべ」(平成 21 年オープン)
- 《三大祭り》
- 石動曳山祭 (4月)
 - おやべの獅子舞祭 (5月)
 - 津沢夜高あんどん祭 (6月)



《観光地・施設》

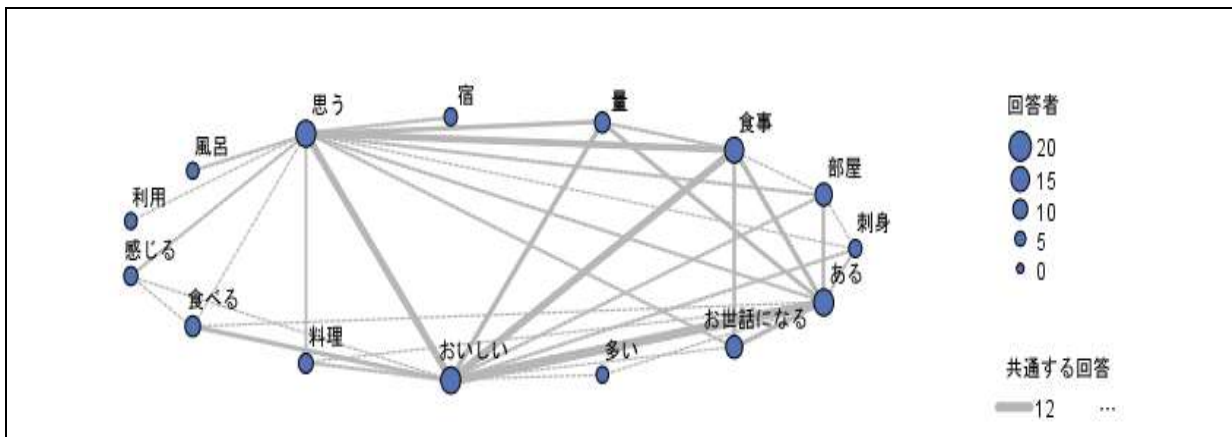
- チューリップ色彩館
 - となみ散居村ミュージアム
- 《イベント》
- 出町子供歌舞伎曳山車 (4月)
 - となみチューリップフェア (4月 下旬から5月上旬)
 - 庄川観光祭 (6月)
 - チューリップ公園 KIRAKIRA ミッション(12月)

2) 朝日町来訪者のデータ分析

朝日町を来訪した観光客の実態調査としてインターネットで観光の専門サイトで情報収集し、来訪者の口コミを統計学的なテキストマイニングを用いた朝日町への観光の言説分析を行った。テキストマイニングを用いることで、インターネット上のブログや口コミ情報より、宿泊施設や観光地のもつ雰囲気や全体的な情報を言語的に計量化することを可能とし、また、観光地に訪れた来訪者のイメージを客観的に分析することを可能とする。本調査で対象となるのは、①楽天トラベル*内の口コミ(検索キーワード「朝日町/富山」と、②フォートラベル**内の口コミ(検索キーワード「朝日町/富山」とした。

○楽天トラベルにおける「朝日町 富山」の分析

【楽天トラベル*—検索キーワード「朝日町/富山」・ヒット1件：宿『うな新』のロコミ】



カテゴリ	棒グラフ	選択 %	回答者 ▲
おいしい		60.7	17
ある		60.7	17
思う		60.7	17
食事		57.1	16
お世話になる		46.4	13
部屋		46.4	13
食べる		39.3	11
良い		39.3	11
量		39.3	11
料理		35.7	10
感じる		32.1	9
刺身		28.6	8
宿		28.6	8
利用		25.0	7
朝食		25.0	7
多い		25.0	7
風呂		25.0	7
宿泊		25.0	7
うどん		21.4	6
値段		21.4	6
ご飯		21.4	6
出来る		21.4	6
建物		21.4	6

■ 4 ■ 5 評価点 (0点~5点)

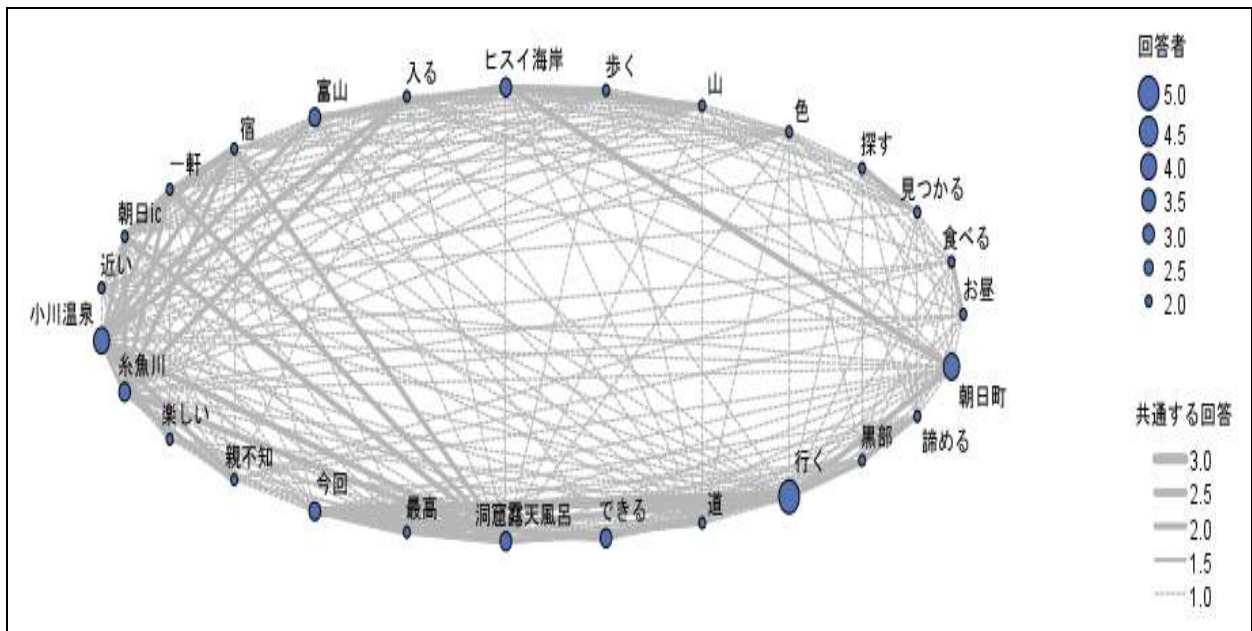
ロコミ内訳 (ヒット件数 : 28 件、投稿日 : 2009/9/24~2011/1/18)

- 夕飯朝食共に本当にボリューム満点でとても美味しかったです!!
- ロコミの評判を見て宿泊を決めました。
- 4月10日に利用させて頂きました。当日は朝日町の舟川べり&黒部市内にある宮野山公園の桜の撮影後の利用でした。
- お値段の割にはお食事がとても良かったです。(蟹、うなぎ、お刺身と高級食材が出ました!)
- 国道やインターチェンジ、ショッピングセンター、海水浴場からもとても近く、いい場所だと思います。
- 確かに建物も古いんですが世話をして下さったお婆さんの心温まる姿がとても気に入りました。

※係り受け解析・感性解析は使用しない、「動詞・名詞・形容詞・地名・組織名」、出現頻度/出現件数の最小値は「3」

○フォートラベルにおける「朝日町 富山」の分析

【フォートラベル**ー検索キーワード「朝日町/富山」】



カテゴリ	棒グラフ	選択%	回答者^	合計%
行く	[Bar chart]	50.0	5	
小川温泉	[Bar chart]	40.0	4	
朝日町	[Bar chart]	40.0	4	
洞窟露天風呂	[Bar chart]	30.0	3	
ヒスイ海岸	[Bar chart]	30.0	3	
富山	[Bar chart]	30.0	3	
できる	[Bar chart]	30.0	3	
今回	[Bar chart]	30.0	3	
糸魚川	[Bar chart]	30.0	3	
朝日ic	[Bar chart]	20.0	2	
歩く	[Bar chart]	20.0	2	
入る	[Bar chart]	20.0	2	
楽しい	[Bar chart]	20.0	2	
諦める	[Bar chart]	20.0	2	
食べる	[Bar chart]	20.0	2	
一軒	[Bar chart]	20.0	2	
道	[Bar chart]	20.0	2	
近い	[Bar chart]	20.0	2	
黒部	[Bar chart]	20.0	2	
最高	[Bar chart]	20.0	2	

投稿テーマ (Posting Theme):

- ドライブ・ツーリング (Red)
- 特になし・その他 (Grey)
- 花・自然・動植物 (Blue)
- 温泉・サウナ (Light Blue)

口コミ一部内訳 (ヒット件数: 10 件、旅行時期: 過去 2006/04/2、最新 2012/04/30)

- 街中で買い物をした時、お店の人に「この辺で良い温泉がありますか?」と聞いたところ「宇奈月もあるけど我が町の小川温泉はお勧めです」とのこと、一路温泉に向かう事にしました。
- 内湯の温泉も良かったのですが、宿から歩いて6分の所にある洞窟露天風呂は別世界でした。
- 朝日町・境の「護国寺」へ石楠花を見に行ってきました。
- 黒部新潟の県境の朝日町で立ち寄り湯に入って、親不知～糸魚川～上越～柏崎から小千谷～十日町～六日町で関越道で帰ってきました。

※係り受け解析・感性解析は使用しない、「動詞・名詞・形容詞・地名・組織名」、出現頻度/出現件数の最小値は「2」

*楽天トラベル: 日本最大の宿泊予約サイト (<http://travel.rakuten.co.jp/>)

**フォートラベル: 旅行のクチコミと比較サイト (<http://4travel.jp/>)

3. 本調査のまとめとご提案

1) 本調査のまとめ

本研究室では、大学コンソーシアム富山の依頼により、朝日町「観光地の魅力アップ」について、観光地の魅力アップに繋がる情報収集を行い、朝日町の観光振興全般の課題に関する研究調査をしました。

平成 25 年 10 月 31 日に朝日町商工観光課でのヒアリング、朝日町の観光スポットの視察を行いました。平成 26 年 1 月 20 日に、あさひふるさと体験推進協議会事務局長の上澤聖子様との打合せを行い、一橋大学大学院商学研究科の藤川遼介氏を招聘し、朝日町商工観光課とともにプレゼンテーションとディスカッションを行いました。

また、同調査の平成 25 年度の契約期間中には、富山県立大学九里研究室で、観光産業動向の全般の調査を行い、朝日町の諸観光データの分析を行いました。

以上を踏まえまして、朝日町における観光全般の把握、そして観光客の立場からの「求められていること・必要なもの」を認識し、その需要に見合った戦略・取組みについて実施案の提案を行います。既存の観光地の活性化や朝日町の一層の魅力度のアップを提案いたします。

これらの取組みが、朝日町の活性化を通して「富山県」としての PR 効果を生み、“郷土・富山県”の情報発信にもつながることを期待しています。

2) 本調査研究を踏まえたご提案

①朝日町における観光情報発信策と自治体観光 WEB のリニューアルの必要性

現在、アクティブな観光客はスマートフォンや自宅 PC によりインターネットに接続し、観光目的地での観光機会と目的地の情報収集をし目的地を訪れるか、また訪れた場合どのような観光機会があるのかの吟味を行う。旅行者はまず自治体の観光情報 WEB を閲覧し、次に旅行ポータルサイトの宿泊情報、飲食情報、見どころ情報と旅行者のロコミ情報を閲覧し、交通アクセスを確認する。

2010 年の（財）経済広報センターの調査では、旅行者の国内観光地を選ぶ決め手は「自然の豊かさ」（58%）、「歴史・文化」（50%）、「観光地およびそこまでのインフラ（国内交通ネットワーク）の充実」（45%）、「宿泊施設」（45%）、「食事の魅力」（44%）、「温泉施設」（42%）」の順となっている。また同調査では、観光旅行の目的は「「娯楽、ストレス解消、リフレッシュ」が 90%、「体験、異文化に触れる」が 69%」であるが続く。前回調査と比較し、「自己啓発、学習」「子どもの教育・価値観の育成」が減少となっている。また、エコツーリズム、グリーンツーリズムなどのニューツーリズムの「未体験は 41%、「産業観光」「エコツーリズム」に半数以上が関心を持つものの、「今後行ってみたい」との意向では差がある。」としている。

観光による地域の活性化、魅力ある観光地の形成というテーマに立ち返ると、地域において観光振興を行うとすれば、それは「その土地の風物へのまなざしを基本に据えた郷土の再生」ということになる。そこに住む者にとっては日常的に見慣れた風物も、観光する者にとっては、その定住地との差異があるがゆえに、非日常性を帯びた風物となる（「観光立国と地域活性化をめぐる」国土交通調査室、萩原愛一、2009 年）、と指摘されている。

このような現状を踏まえ、1. 自然の豊かさ、2. 歴史・文化、3. 交通の利便性、4. 宿泊施設、5. 美味しい食事、6. 温泉施設というハード的なカテゴリー、ソフト的なカテゴリーとして、1. 娯楽、ストレス解消、リフレッシュ、2. 体験、異文化に触れるという要素で、四季を通じた旅行者への観光の情報提供を WEB を通し、統合された朝日町観光ポータルサイトが必要である。 APITEC 藤川遼介氏による朝日町への Web リニューアルの提案が以下なされている。

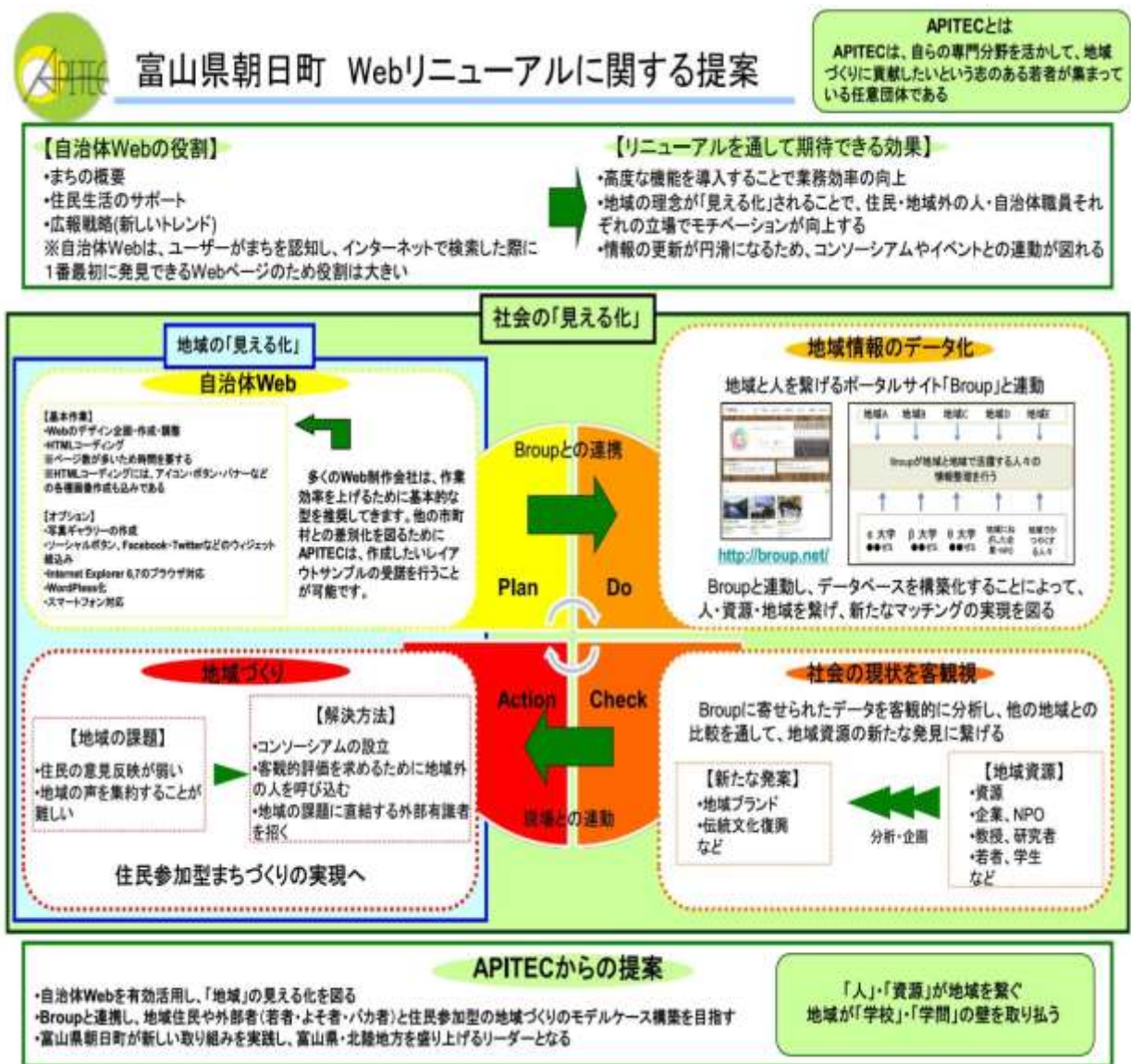
この朝日町の自治体観光 WEB リニューアル作業を通じて、まちの現状分析、ビジョンの明確化を行い、オン・オフ（WEB と地域住民・産業活動）の連動のまちづくりが可能となる。

これは地域住民を対象とした、自治体観光 WEB に関するワークショップ（自治体観光 WEB に求めること、どのような情報が欲しいか、アクセス等）を複数回することで、自治体観光 WEB により「自分の町の魅力発信」をどうするかを住民や事業者が発展的に構成することができる。

このような自治体観光 WEB は域外の人が、朝日町の観光の魅力関連する情報が効果的に得ることができる。

自治体観光 WEB の次のフェーズでは WEB と連動した「観光まちづくり」へと転換が必要となる。つまり、WEB でバーチャルに統合された観光情報の地域での具体的な統合化と目的達成である。観光まちづくりとは、「地域社会が主体となって地域環境を資源として活かすことによって地域経済の活性化を促すための活動の総体」（西村幸夫編著『観光まちづくり』学芸出版社, 2009 年）である。

APITEC 藤川遼介氏の朝日町への Web リニューアルの提案概要



②自治体観光 WEB に関するワークショップの開催と時限的な観光振興に特化した協議会の設立

観光地魅力アップのポイントは、地域のステークホルダー(利害関係者、事業者、自治体、住民、関連機関)が一体となってその増進に努めることが重要であり、多くの人が顔を合わせ、知恵を出し合い、地域を愛する気持ちを大切にきて来訪旅行者を増やすことを話し合うことが重要で、それにより地域を活性化することが可能となる。地域のステークホルダーと大学(教員、学生)が自治体観光 WEB 作成という合理的で時限的な目標を持ち、自治体観光 WEB 作成ワークショップを通じて朝日町の観光振興を目標に、朝日町の観光及び地域資源の再発見、観光地の魅力や地域の観光資源、その発信(何を伝えたくて、何を経験してほしい、何に満足してほしいかの「3つの何」)について考え、それを踏まえて、自治体観光 WEB にその情報を集約し、地域資源のブランド化へとアプローチを行う。このような方法を通し、朝日町の観光振興を考えるあらゆる主体が双方向の形で話をする場を設けることを提案する。中心メンバーは、あさひふるさと体験推進協議会事務局長の上澤聖子氏とし、また協議会設立期限を2年間と限定し、月1回程度のペースで行うことを提案します。

③個別の観光振興策について

- ・旅行サイトにおける口コミ情報の増加の必要性。各事業者が旅行者にインセンティブを提供し働きかけるとともに(口コミに書き込むとヒスイチョコレートなどの安価なお土産を出すなど)、観光事業者がブログ等で写真を交えた定期的な情報発信を行う必要がある。
- ・あいの風とやま鉄道開通を機会に、駅ナカ、駅前の魅力向上に努める。特に主要駅である泊駅の駅ナカ、駅前の観光サービスの充実が必要である。例えば、お土産購入や地元の食事(タラ汁など)を体験できる。越中宮崎駅の「さびれた感」の払拭の必要性。駅前の抜本的な観光地としての環境整備が必要。ヒスイガイドの広報とさらなる普及が必要。
- ・ニューツーリズムとしてのエコツーリズムの導入、グリーンツーリズムの活性化。特に、エコツーリズムは体験したいが未体験の層が多い。朝日町×エコツーリズムという大々的なキャンペーンを行ってもいい。グリーンツーリズムは教育旅行としてすでに定着をしているが、後継者の問題など地域で解決しなくてはならないきつ急な課題もある。
- ・教育旅行の更なる普及。これは担い手と受け入れ限度があるが、これまで定期的に来ている団体以外にも教育旅行の営業活動を行うことにより拡張の可能性がある。
- ・地元の食事(タラ汁)のさらなる普及。朝日町に来たら必ず食べて帰るといった観光行動を定着化するためにタラ汁 MAP を作成したりする。
- ・良好なアクセスの明示。これは自治体観光 WEB で行うものであるが、自動車旅行者にはアクセスはとて良好であることを広く知らせたい。
- ・観光資源としての湯治をさらに広く知らせる。これは自治体観光 WEB、旅館で行うものであるが、富山でも数少ない湯治の場であることを広く知らせたい。
- ・夏×キャンプ場×朝日町の定着化。統計データでも見えるように夏が大きな観光シーズンである。「富山県民は、夏は朝日町でキャンプ」を定着させたい。
- ・古民家等を活用した飲食の提供。今回は詳しい調査ができなかったが、古い町並みでの町屋、または人里離れた集落での古民家はたとえ1件であっても「町屋レストラン」、「古民家カフェ」として魅力ある観光スポットとして注目されている。
- ・地域の観光関係業者のホスピタリティの向上。時代に見合った朝日町の「おもてなし」を提供。

事業評価報告書

1. 地域課題名

朝日町の観光地の魅力アップについて

2. 自治体名および評価部局名

朝日町商工観光課

3. 課題の概要

当町にある観光素材に対する受け入れ態勢（ソフト、ハード）が不十分であり、観光地としての完成度が低いため、訪れる観光客を十分にもてなすことができていない。消費行動させる工夫が不足しているなど、観光産業にうまくつなげることができていないため、観光地として充実を図り、リピーターを増やし交流人口の増加を図りたい。

4. 解決策の提言に対する評価（観点及び分析等について具体的に記載下さい。）

調査研究を踏まえ、「朝日町における観光情報発信策と自治体観光WEBのリニューアルの必要性」が提案された。

観光客への情報発信の場として、WEBの活用及びリニューアルの必要性は既に認識しており、また、自治体観光WEBに関してではないが、地域住民を含めてのワークショップも開催されている。上記提案については、一般的な考えであり、事業を活用した効果があまり感じられないように思う。

個別の観光振興策については具体的であり、また、固定概念のない新たな視点に立った参考になる提案だと思う。

朝日町来訪者のデータ分析については、インターネットでの情報収集のみであった。朝日町において、最も観光客入込数の多い夏期（7月～9月）を過ぎての業務委託であったため、観光地に来訪される方の「生の声」を聴くことは難しかったかもしれないが、現地での聞き取り調査や観光地に対する町民の声などを盛り込んだデータ分析もあれば、課題解決に向けた具体的な施策につなげることができたのではないかと感じた。